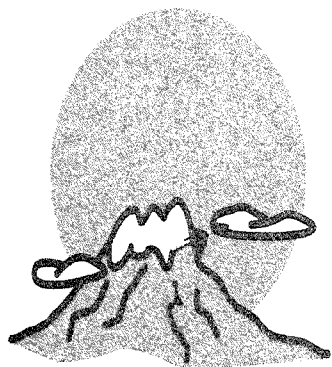




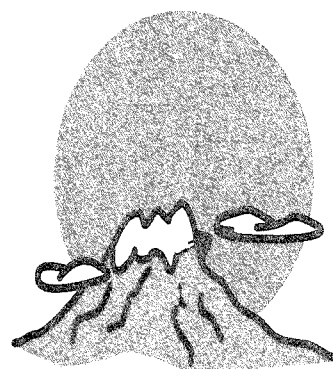
文大生の 故郷都留



『市立』大学生の可能性

～学園都市を比較する～

比較文化学科2年 高田あや



私がこの街で暮らしてみても初め
て気がついたのは、私の住んでい
た街がいわゆる学園都市であった
ということでした。

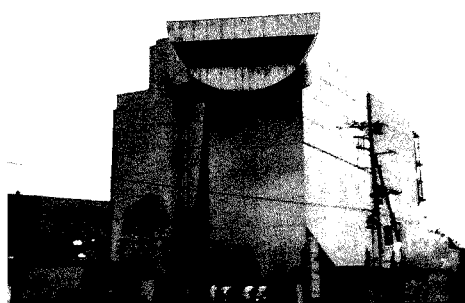
私の「ふるさと」は東京都大田
区、東京急行目蒲線・大井町線沿
線の大岡山駅周辺に位置します。
線路沿いのアパートに住み、十九
年間をそこで過ごしました。大田
区というと京浜工業地帯を支える
町工場、零細企業…のイメージが
自分としては強いのですが、私の
家は大田区の外れにあり、むしろ
れっきとした住宅街です。入れ代
わりの激しい団地のようなものも
なく、私の母校である小学校など
はもうその生徒数が三百人を切っ
てしまいました。

そんな住宅街でありながら、喫
茶店やいわゆる大衆食堂だけは至
るところにありました。私自身、
利用した覚えはほとんどありません。
当時の私にとって、ごはんは
家に帰れば「出てくるもの」でし
た。それゆえ、子ども心にこうい
った店の経営は大丈夫なのだろう
か…と思ったものでした。学生と
いうお金はなく、しかしとにかく
よく食べ、とにかくよく騒ぐ「人
種」の存在を私は知らなかったの
です。

国立東京工業大学。それは私の
家から二分ほどのところにありま
す。文大とは対極ということにな
る、理系の総合大学です。敷地も
やたらと広い。家に庭などない私
たちにとって、キャンパスは確実
にいいの場として根づいていま

した。単なる経済効果ということ
だけでなく、東工大は街の自慢で
した。

春はごみを敷いて花見をする家
族づれの姿がみられました。秋に
なれば、銀杏並木に学園祭の店
が軒を連ねます。お祭り気分に乗
っかって、小学生のころは友だち
と一緒に、特に何の目的もなくで
かけたものでした。一月を過ぎる
と、朝早々から駅員が「東工大受
験の方はこちらへ」とアナウン



東京工業大学

スし、構内に受験生があふれます。
高校へ電車通学するようになって
からは、受験生の緊張感を自分の
ものとして、ひしひしと感じるよ
うになっていました。東工大にま
つわるイベントはイコール地域の
イベントでもあったのです。

鑑みて、文大のイベントははた
して地域のイベントとして根づい
ているでしょうか。それは文大を
地域に生きた「都留市立」の大学
としてとらえようとする学生がい

ない限りは無理なのかもしれません。
私が問題視しているのは、文大
生の「仮住まい意識」です。文大
はC日程方式と地方入試制度によ
って、全国から学生が集まること
が大きな魅力の一つだと思います。
そのぶん地元への愛着心も強い
のか、学生の九割が都留市の住民で
ありながら、都留にいないことを
「認識」していない学生が多すぎま
す。大学の授業が終わるとみんな
がみんな我先に、と帰省するのは
何故でしょうか。学園祭の日には
イトを入れるのは何故でしょうか。
都留に魅力がないから？学生が学
生との人間関係にしか、文大の魅
力を見いだせないなら、「市立大学」
の意味は何でしょう。

私は新聞部に所属し、学内・外
で懸命に頑張っている人たちにた
くさん出会えました。そして同時
に、取材する先々で都留の「おも
しろさ」も知りました。初めて実
物を目にした雪つり。カルキ臭く
ない蛇口の水。はつきり見える北
斗七星……こんな些細なことにも、
都留の魅力を見いだすことは出来
るはず。大学があつたから都
留に来た、のは私も同じこと。ど
うせ四年は住むのだから、食欲に、
楽しみを一つでも多く見いだして
みようではありませんか。不満が
あるならそれを大学に、市に声を
挙げればいい。学生だから、地元
民でないからいえることもあるで
しょう。市と「市立大学」生の連
動の第一歩はこんなところにある
と思います。